



スペースワン株式会社提供



『最南端』のまちから

『ロケット最先端』のまちへ

3月9日(土)
初号機打ち上げ決定!

和歌山県
WAKAYAMA-KEN

SPACE PORT Kii
スペースポート紀伊



スペースワン株式会社提供

ロケットのまち「串本」

紀伊山地を背に潮岬が太平洋に突き出す、「本州最南端のまち」串本。雄大なリアス式海岸、ラムサール条約の登録を受けた「世界最北限のサンゴ群落」を有する美しい海域、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」に登録された青々と茂る山々に囲まれた串本は、壮大な自然に抱かれた町です。

そんな串本町に、令和3年12月、日本初となる民間ロケット射場が誕生しました。田原地区の山間から太平洋側に向かって建設されたこのロケット射場は、「宇宙への扉を開き、宇宙と地球を繋ぐ新たなゲートウェイとして鍵（キー）になる射場」との想いから、「スペースポート紀伊」と名づけられました。

スペースポート紀伊とは？

スペースポート紀伊は、スペースワン株式会社が運営する国内民間初のロケット射場です。人工衛星を専用の小型ロケットで宇宙に運ぶための施設で、射場には、ロケットを打ち上げる射点に加え、射場全体の管理・運営のほか、人工衛星の整備や点検、ロケットの発射管制を行う「総合指令棟」、ロケッ

ロケットの可能性

和歌山県の試算では、ロケット射場の建設投資効果、射場運営効果、観光消費効果を合わせて、10年間で670億円程度の経済波及効果が見込まれています。また、中長期的には宇宙関連の先端産業の集積などにより、雇用創出効果等も期待されます。こうしたロケットの可能性を活かすべく、継続的に観光客等呼び込み、地域の魅力をアピールする取組が求められています。

串本町では、ロケット打ち上げに向けて、県や那智勝浦町と共に、それぞれに2500人を収容する公式見学場を設置しました。また、旧古座分庁舎をリノベーションし、観光・教育旅行の誘致の拠点施設となる「宇宙ふれあいホール Sora Miru」を本年夏にオープンする予定です。この施設は、ロケット打ち上げ映像等を楽しめる「臨場感シアター」、宇宙関連の展示等を行う「ロケットミュージアム」や「星空ライブラリー」、あらゆる企業や個人が利用できる「サテライトオフィス」などを備えており、「ロケットのまち串本」を町内外の方に実感してもらえる施設となるよう整備を進めています。

なぜ串本に射場が？

トの組立・点検を行う「ロケット組立棟」等が備えられています。

スペースポート紀伊では、小型化された人工衛星を専用の小型ロケットで打ち上げることで、契約から打ち上げまでの時間を「世界最短」、打ち上げ頻度を「世界最高」とする商業宇宙輸送サービスを目指しており、20年代中に年間20機を打ち上げる予定です。

- ①地元の理解と協力が得られる
 - ②射点の南方と東方に陸地や島がない
 - ③射点の周りに建物や人がいない
 - ④本州の工場からのアクセスが良い
- このような射場適地は全国でも少なく、串本町では、平成29年9月、和歌山県と共に民間初のロケット射場誘致に挙手。平成30年3月に「民間ロケット射場誘致推進室」を設置して用地交渉などを進め、地元の方々のご協力のもと、平成31年3月、射場予定地に選定されました。

地理的な条件はもちろんですが、何よりも地元の熱意ある協力体制が一番の選定要因でした。

ロケット関連商品も続々と登場!

町内や県内、また他府県においても、ロケットを活かした商品やお土産・記念品が製作され、着々と「ロケット観光」に向けた準備が進められています。今回はその一部を見てみましょう!



そらのかけはし
(有限会社 串本儀平)



POKETLE コラボ
和歌山ロケットクリアボトル
(フィッシング&クルーズ はるまる)



生しいたけ
(串本椎茸株式会社)



串本ロケット
(セ・ラ・セゾン! 和歌山串本養春店)



もちり水ようかん
(有限会社紅葉屋本舗)



コルクコースター
(株式会社 USP ジャパン)



スタンド付きひのきコースター
(Digital & Woodworking 串本ベース)



煎りたてコーヒー豆
(Coffee roastery Hang Out)



そのまんまうめ
(おざきの干物株式会社)



ロケットサイダー
(南紀串本観光協会)

串本町では、町独自のロケットロゴマークを制作!町内外の55団体の皆さんに申請してもらい、色々な商品などに使用してもらっているよ!



人気漫画『宇宙兄弟』×串本町のコラボ作品も多数♪

@小山宙哉/講談社

地元の想い!

田原地区 区長

筒井政士さん

串本町は、本州の「最南端」に位置し、地理的には不利な場所にあります。また昭和30年代の都会への集団就職など時代背景もあり、人口減少はいたしかたないかと思えます。田原地区でも、区民会の会員数は平成25年度から令和4年度のわずかに10年間で51件の減少が見られました。今年度も減少率が増加傾向にあり、空き家が増え続けています。

串本町の人口減少をどうひっくり返せるか、ロケット事業はそのよい機会だと思います。40年ほど前から、官民一体となって「宇宙のまちづくり」を進めている北海道大樹町の現況も気になっていきます。串本町が今後、このチャンスをもどくように活かせるかが重要です。新規産業が展開される地元で、人口の減少率が少しでも小さくなることを期待します。

地域でも応援!



和歌山ロケット応援団
あおき けい
代表 青木 圭 さん

ロケット「カイロス」打ち上げを応援しようと結成した「和歌山ロケット応援団」は、現在町内外約100名の方に登録いただいています。周辺の海岸清掃やロケット応援のぼりの制作等の活動を通して、地域一丸となって打ち上げを盛り上げたいと思っています。

ロケットが実際に打ち上げれば、多くの方が串本を訪れることになると思いますが、ぜひ数日間滞在し、さらなる串本の魅力を知っていただきたいです。また、発射を目の当たりにした子どもたちの中には、将来宇宙関係の職に就きたいと思う子もいるはず。応援団としても、新しい取り組みに挑戦し、地域を活気づけていきたいと思っています!

地元高校でも

ロケット商品開発!

令和6年から、公立校では全国初となる「宇宙探究コース」を設置する串本古座高等学校。同校のCGS部調理班では、ロケット「カイロス」発射に向けて、令和4年度からロケット商品開発に取り組んでいます。町内でカレールー屋を営む川村さんの協力のもと、改良を重ね、地元食材を使った「ロケットまぜそば」を制作しました。

地元でロケットが打ち上がると聞いて、「自分たちに何かできることがあれば」と、地元の方に協力していただき、地元の食材を使ったロケット関連商品を作りました。ロケットをきっかけに串本へ遊びに来られた方に、「串本は自然にも恵まれていて食材も豊富。高校生もパワフルで、地元の人々も日々頑張っている!」ということを知ってもらいたいです!

▼ロケットまぜそば
ジビエなど地元食材を利用して、宇宙やロケットをイメージ!



串本古座高校

CGS部部長(調理班長)

雑賀和さん

